

## 令和7年度第2回地方独立行政法人徳島県鳴門病院評価委員会 議事録

日時： 令和7年8月25日（月） 19：00～19：45

場所： オンライン（ZOOM）

出席者：（評価委員）鵜飼委員、北畠委員、志摩委員、田中委員、土橋委員  
（鳴門病院）住友理事長、他職員

### 議題1 令和6年度に係る業務の実績に関する評価結果（案）について

### 議題2 第3期中期目標の期間に係る業務の実績に関する評価結果（案）について

（委員長）

それでは、本日の議事に入らせていただきます。

前回の委員会では、「令和6年度の業務実績」及び、「第3期中期目標の期間に係る業務実績」について、鳴門病院から説明をいただきました。その後、各委員に検証いただいた結果を事務局でとりまとめ、県としての評価結果（案）を作成しております。

それでは事務局より、議題1及び議題2に関して、それぞれの評価結果（案）の説明をお願いします。

（事務局）

（資料3～資料6により説明）

続いて、鳴門病院より、委員の皆様からいただいたコメントに対する回答がありましたらお願いします。

（鳴門病院）

検証に当たっていただいたコメントに対する回答について説明いたします。

まず、「評価に当たって目標値がない項目は評価基準がなく、極力目標値を設定してほしい」というご意見ですが、「産科医療や小児医療の充実」の項目について、助産師外来・母乳外来受診者延数300名、「質の高い医療従事者の確保・養成」について、特定行為研修修了者5名、看護師離職率7.5%以内、看護師以外のコメディカル離職率2.5%以内など目標値の設定を検討したいと考えております。設定時期については、令和7年度の業務実績の評価に反映させるため、令和7年度計画の改定を行う予定としております。

続いて、「産科医療や小児医療の充実」の、小児救急についてですが、小児科医の確保が現状困難であることから、引き続き現在の日曜日のオンコール体制を維持が現在のところ精一杯であると考えております。

また、他の中核病院のようにもっと高い目標設定をすべき、病床利用率が低いというご

意見についてですが、地域包括ケア病棟については昨年度 75.7%のところ、R7.7月末時点では 81.7%と活用が定着しつつあります。急性期病棟については、外来患者延べ数の減少に伴う予定入院の減少により伸び悩んでいる状況であることから、紹介予約がスムーズに運用できるよう各科に再度指示徹底したところであり、紹介率の向上、連携医療機関等の御意見を十分にお聞きしながら取り組んで参りたいと考えております。

経営状況の分析等についてですが、医業収入については、コロナ禍前の令和元年度の水準まで回復したものの、人件費や光熱水費・材料費などの高騰に伴う費用の増加がそれを遙かに上回った結果であると認識しています。また、新規入院患者数や外来患者数が減少傾向にあり、病床利用率も伸び悩んでおり、近隣住人の方々から当院での治療を選択していただけていない現状であるため、今一度原点に立ち返り、救急医療など地域の皆様から信頼される病院づくりに努めていきたいと考えております。

最後に、評価に当たっての評価基準の明確化について、今後の評価においては、過去の評価との整合性や目標値の設定を含め、改めて、違和感を生じさせないような評価基準の検討、また説得力のある自己評価設定理由の記載に努めて参りたいと思います。

鳴門病院からの説明は以上です。

(委員長)

年度評価、期間評価ともに、先ほど事務局から説明があった通り、意見が分かれたところはほぼ同じ項目でしたが、「産科医療や小児医療の充実」の項目は、年度評価、期間評価とも委員評価が A、B、C と大きく分かれる形になりましたが、その項目のどこにレートを置くか、covid-19 のときにも、感染拡大によって入院患者等が減って、収益等が減った部分をどうするのかということでも、これだけ蔓延してたら致し方ない、その状況の中でもよくやったと評価するか、やはり数値だけを客観的に見て、厳しい評価をするかっていうことは分かれましたけど、この部分は、県全体の分娩数がもう 4,000 件を切って、大きく減少していく中で、なんの数値をどう評価するかっていうこともあるって、意見が分かれたようですけれども、事務局の説明の通り、平均値を取るというか、A 評価と C 評価を相殺して B 評価とみなすと、全体評価としては案の通りの結果というふうになっています。ただ今の事務局からの説明について、何か御質問等はございますか。

(委員)

[手持ち資料を画面共有]

とりあえず準備もしてますので、私の意見を申し上げます。特に評価を変えるとか、そういうつもりで言うつもりはございません。今回 6 人の委員、私も含めて色々検討した結果、集めてみたら、評価としては落ち着くところに落ち着いてくるんだろうなと思ってます。私も、この評価委員会の委員をさせていただいて、そこそこの期間になるような気がしますけれども、病院の今までの活動、私なりに拝見させていただいて、医療に関して

色々努力されて、強みのある分野についてはその強みを生かし、また看護学校もそうですし、また医師を含めスタッフの働き方改革、育成、またはその担い手の確保、そういうものも頑張っているのはよく分かっています。

ただ、やはり1つの公的病院とはいえ、企業体としては、やはり収支の問題、これはやっぱり、以前から私としては気になるところです。第1期の時から今年度まで、予算、収支計画及び資金計画の欄について、この表の中で取ってるのは経常収支比率だけを取っています。第1期、第2期、第3期で、中期計画の目標値としては100%もしくは100.0%以上で毎回変わっていないんですけれども、その実績がどうなっているのか、私の知る限りまとめさせていただいたのがこの資料です。

平成28、9年頃から私が委員として参加していると思うんですけれども、この頃というのは、ほぼ100%に近い実績値があるんだけども、なかなか100%を超えないということで、鳴門病院としては非常に頑張っていらっしゃった時期だと思ってます。平成27年度、平成28年度、平成29年度の年度計画の評価を見ていただいたら分かるように、結局、0.8、0.5、0.9という差で自己評価もC評価にしています。その評価とここ最近の評価っていうのが、本当に合致するのかどうなのかというのは、やっぱり私としては気になるところが1点目です。

それと2点目に、いわゆる感染症禍の頃、令和2、3年をおいておくとですね、病院、経営体として、色々努力はされてるにも関わらず、結局、改善としては一気に2ポイント、3ポイント、5ポイントという改善はできないみたいなんですね。やはり0.何ポイントをどう改善するのか、それがなかなかできなくて、何ポイントぐらい落ちるみたいなどころが続いているというところがあります。そうなってくると、令和6年度の90.3%は、目標の100%に対して、一体何年分の努力が足りなかったのかという観点でいくと、あとちょっと足りなかっただと言えるような状況なのかということは、私は疑問無しとしては思えないところです。

3つ目はですね、第4期中期計画、令和10年度目標も、目標値としては経常収支比率で言うと100%としていますが、令和6年度90.3から言うと9.7ポイント改善しなければならない。その9.7ポイントの改善が、これから先の話ですし、もちろん病院は努力されるのは十分承知はしますけれども、本当にその現実的な答えとして届きうるものなのかどうなのか。第4期の中期計画の目標との関係でも、相当な努力、それも尋常じゃない努力がなければ、なかなか100%までいかないのではということを懸念しているわけです。

とりあえず私なりに、この予算、収支計画及び資金計画の思いについて、意見としても述べさせていただきます。以上です。

(委員長)

ありがとうございました。経時にデータもまとめてコメントいただきましたけど、鳴門病院さん、何かただいまのコメントに対してお答えするようなことはありますか。

(鳴門病院)

大変貴重なご意見をいただきまして、本当にありがとうございます。

経常収支の過去の評価との整合性につきましては、委員おっしゃられる通りの部分がございますので、来年度に向けましては、そういった部分も踏まえて評価をやっていけたらと考えております。

医療業界、今確かにおっしゃるように非常に厳しく、10 ポイント近くを上げるのは、なかなか困難なところがあって、医療全体、国全体の改革を含め、なかなか困難なところもあると思います。

ただ、我々がしていくことは、0. 何ポイントを積み重ねていくことからしないといけないと思っておりますので、この 4 年間で何ができるかっていうのを慎重に考えながら、達成できる、それこそ心血注ぎ込んで頑張りたいと思うところでございます。

(委員長)

ありがとうございます。県立病院も非常に厳しい財政状況ですね、病院は本当に細かいことをチェックして、コンサルも入れ、院内で検討して、色々な加算項目をなんとか 1 点でも上げるように努力して、DPC の機能評価係数を上げるような、解析ソフトなどを使っても、改善できるのが 0. 数ポイント、本当に 1 ポイントとかそういうレベルになっており、根本的に診療報酬改定が大きく改定されないと、全国の多くの病院が厳しい状況であるっていうのは現実かなとは思います。

ただ、我々も含めて、本当に少しでも、1 ポイントでも 0.1 ポイントでも上がるよう努めを続けて、あとは政治的な働きかけ、全国知事会からもしていただいてますけれども、そういうことも同時に進めるっていうことが必要じゃないかと思います。ほかにご意見等ございませんでしょうか。

(委員)

労使の立場からお話をさせていただきたいんですが、先ほど数値目標のことがあったんですが、やはり人事労務関係で数値目標が非常に少ないという印象があります。

特に、先ほども離職率の数値を入れるということでしたが、医師の働き方改革に関する残業時間等に関しては、前から数値をお聞きして、それほど鳴門病院は問題ないよっていうようなお話をあったんですけども、数値が見えてこないので、どのように判断していいのかが分からないところもありまして、働き方改革の問題がないのかどうか。また、医師だけでなく、いろんなコメディカルの方、看護師の方、それから事務の方の残業とかそういうところに問題はないのかどうかっていうことについて、少し数値で見せていただけるとありがたいなと思っているところです。

(委員長)

鳴門病院はA水準だと思いますが、鳴門病院の方からいかがでしょうか。

(鳴門病院)

A水準としていますが、やはりそれだけでは難しいところがございまして、今、働き方改革、さらに変えていこうとしてるところでございますので、A水準ではございますが、部分的には、場合によってはAを保てないところも出るかもしれませんので、なかなか評価は難しいところでございますが、日々にこちらの辺りを整えて、委員の皆様にはご評価いただけるような形にしたいと考えているところでございます。きちんとしたお答えはできなくて誠に申し訳ございません。

(委員長)

数値目標というと、直近の平均時間、例えば60時間を超えて面談を受けた人数とか、なかなか設定が難しいとは思うんですけれども、委員が言われたように、見えないということですね。

(委員)

A水準でも、本当に各個人の先生方が大丈夫なのか、昔の鳴門病院だとかなり大変だったというような印象があったので、今は働き方改革が進んでるのかもしれません、きちんと数値で見れるとありがたいなと思ったところです。

(委員長)

そうですね。B水準と連携B水準の病院は、いわゆるA水準を超てる医師の数とかを出して、その辺をチェックしていますが、A水準に関しては難しい部分はあると思いますけど、また検討していただけたらと思います。ほかには何かご意見等ございませんか。

それでは、他にご意見がないようでしたら、各評価結果案については評価委員会として原案の通り了承するということでよろしいでしょうか。

(委員)

(意見無し)

(委員長)

ありがとうございます。それでは、了承とさせていただきます。

本日の議題以外に何かご発言等ございましたらいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、各評価結果案について、評価委員会としての了承を受けて、鳴門病院の住友理事長より一言お願いできればと思います。

(鳴門病院)

ありがとうございます。鳴門病院を代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます。ただいま委員長はじめ各委員の皆様には、鳴門病院の令和6年度の業務実績評価及び第3期中期目標期間に関する業務実績評価につきまして、去る7月14日、そして本日、2回にわたりまして熱心なご審議を賜りまして、深く御礼を申し上げます。

令和6年度の業務実績評価につきましては、全体評価でB、概ね順調に進んだと評価を賜りました。また、第3期中期目標期間に関する業務実績評価におきましても、全体でB、概ね達成したとの評価を賜りました。本当にありがとうございます。

その一方で、先ほどご指摘もございましたが、がん医療の高度化、予算、収支計画や資金計画におきましては、数値目標の達成に向けた改善策の実施が必要である、さらなる収入と費用の抑制など、経営基盤の強化に向けてご意見を賜ったところでございます。このご指摘のところに関しましては、真摯に受け止めまして、その改善にしっかりと取り組んでまいりたいと思います。

鳴門病院は、平成25年に地方独立行政法人としてスタートを切り、今年で13年目でございますけれども、この間にコロナ禍に隠されておりました人口構造の変化が明瞭化し、ポストコロナでは患者さんの受療行動が変化してきて、今年は救急車も少なめで、予定以上に増えていない、そういうこともございます。

その上に輪をかけるように諸物価の高騰ということがございまして、鳴門病院におきましても非常に医療状況の厳しさを感じているところでございまして、まさに今、たった今、その存続でありますとか、ここに鳴門病院の真価が問われているものと認識しております。今、第4期中期目標の達成に向けまして、課題別のプロジェクトチームを設置いたしまして、病院の総力を上げまして、とにかく病院の質を上げる、そして少しでも経営を良くするということに取り組んでいるところでございます。これからも、当院の理念でございます県民の皆さんに信頼される病院づくりを目指し、安全な医療を親切に提供することに努めるということに徹底いたしまして、地域の皆さんから鳴門病院があつて良かったと言われる病院づくりに職員一丸となって力を尽くしてまいりたいと考えております。評価委員の皆様におかれましては、引き続きご指導賜りますように心よりお願い申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

(委員長)

ありがとうございました。それでは、本日の議事は全て終了いたしましたので、事務局に進行をお返しいたします。

(事務局)

委員長、各委員の皆様におかれましては、貴重なご意見ありがとうございました。

今年度予定しておりました評価委員会につきましては、本日をもちまして終了となります。次回につきましては、来年度、6月に現委員の皆様の任期になりますことから、改選の時期におきましては、各委員の皆様に次期任期等のご相談をさせていただくこともあるかと思います。また、その改選が終わりましたら、来年度7月以降に評価委員会の開催を予定しております。

それでは、本日の評価委員会につきましては、これをもちまして終了とさせていただきます。ありがとうございました。